

おおなん協育プロジェクト ～邑南町総がかり！ 協働で育む“協育”カリキュラムの開発～

《背景》

- ・中国山地の山間にある約1万人の町邑南町
- ・高齢化率43%を超え、2040年消滅可能性都市に名を連ねている
- ・地域の未来を担う人材の育成が本校に求められている

《本事業目的》

“ふるさとを思い 地域の未来をつくる人を育成する”

そのために、地域と協働して生徒を育む＝“協育”カリキュラムを整備する
 そのために、矢上高校と地域の未来をともにつくるコンソーシアムを組織する

《コンソーシアムおよび実施体制》

本事業コンソーシアム

カリキュラム開発に必要な諸団体
 島根県教育委員会／邑南町／邑南町教育委員会／
 邑南町商工会／島根県立石見養護学校／矢上高校
 地域応援団／島根大学教育学部

指導

助言

運営指導委員会

(委員：4名)
 コンソーシアムや
 事業の進捗報告、
 本事業運営への
 指導助言

《連携・協働》

矢上高校魅力化推進センター

本事業の担当として企画・実践
 主幹教諭／邑南町役場担当者
 魅力化担当教員／コーディネーター

指導

助言

カリキュラム開発等専門家

(島根大学野広和教授)
 カリキュラムへの
 助言や講評

《令和2年度の目標》

①総合的な探究の時間の再構築

これまでの、町の課題を発見し、課題解決の提言を行うところまで行っていたが、「地域の未来をつくる」ためには、地域で地域の方々と実践することが重要であると考えた。1年生は地域探究だけでなく、自身の進路の探究も行い、地域と進路のつながりを意識したカリキュラムを開発する。

②教科横断型プログラムの開発

教科を通じた探究学習の実施のため、教科を横断したテーマ（SDGsをはじめとする社会問題や地域課題）をもとに思考力・判断力・表現力を育成するプログラムを検討する。

③学校設定教科「起業探究」の設置

地域の課題「働き手の不足」および「働く場の不足」を解消するため、高校時代に「起業家（社会起業家）」となる資質・能力を育成するための新たな教科「起業探究」を作成する。その際、邑南町・矢上高校ならではの内容とすべく、地域と連携して教材を開発する。

《取組状況》

○地域での実践が増加

3年間を貫く計画及び、年間行事を整理し、6月から12月までの半年間かけて仮説立案と検証（地域での実践）を行った。休校期間中は、課題として「Covid-19の警鐘を鳴らすためのTシャツデザイン」を企画し、最優秀デザインは、町内アパレル店で販売。



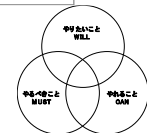
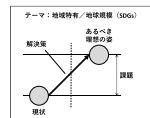
○2種の教材開発と実施

R2年度は、「家庭」「保健」など異なる教科の教員同士で話し合い、タンパク質危機を扱う授業や進路学習と労働問題（8050問題、過労死等）を考える授業を実施。



○教材の計画・開発

R2年度は、役場商工観光課及び、地域団体とワーキングを行い、カリキュラム開発等専門家よりフィードバックを得る。R3年度は2年生を対象に実施する。



《成果と課題》

資源	成果	課題
ヒト	・教材作成と授業実施者の役割分担が明確になった	・授業外の活動のサポート、もしくは各チームの伴走ができる人材（仕組み）が不十分だった
モノ	・今年度の取組の教材が蓄積されており、次年度以降も活用できる	・オンライン対応可能な端末が少ない ・自学探究のための教材が整備されていない
カネ	・オンライン化に伴い、すぐに地域や地域外の人と関わることができた（不要不急な資金の整理ができた）	・邑南町が広いと、移動交通費がどうしてもかかってしまう
情報	・邑南町地域みらい課による地区別戦略事業で、地域の情報が担当課に溜まりつつある	・邑南町の基本情報について知っている教員が少なく、フィードバックの質にまばらになってしまう
時間	・高校1年から3年までを貫く3年間の計画を立て、内容を充実させることができた	・総合的な探究の時間の時数だけでは終わらず、放課の時間に食い込むチームがあった

R3年度は、本事業コンソーシアムを包含する「矢上高校と地域の未来をつくる会（コンソーシアム）」の部会として本事業を遂行する。地域の諸資源を活用し、カリキュラムの実践と検証を行う。